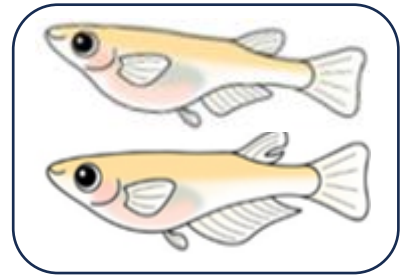


●メダカのお譲り会と日本ミツバチのお話

以前から木津川市ではミナミメダカをおすそ分けがされていたようです。そこで、里山の会では初めてのメダカのおすそ分けの会を開催してみてもどうかと相談に來られました。オスとメスを数匹ずつになりますが、お譲りしましょうということになりました。

1月28日にレッドデータブックの淡水魚についての勉強会で、メダカがデータに乗せられて希少種にされましたが、メダカの配布行為は許されるのでしょうかという疑問について、講師の先生から“お話のメダカはシロメダカなので自然界には生息していませんので絶対に放流してはいけない生き物で、責任をもって最後まで飼育し続けるという行為を守っていただきたい。これが保証される条件です”と厳しく指導がありました。日本には日本海側にキタノメダカ、そして太平洋側にはミナミメダカが生息していて、いずれも黒メダカだそうです。開催日は5月18日（土）でどうかとの案が上がりました。参加募集は公募し、多い場合は抽選しなければならないだろうとの意見もありました。

ミツバチについては池の隣にハチ箱がありますので、大いに学んでいただくことが必要です。特に受粉の役割を担っているミツバチの働きは非常に大事です。正しく理解していただくために、お話を聞いてもらいたいと強調されました。



●京都府環境フェスタの取組 2月3日（土）9時から

3年間コロナで開かれなかった環境フェスタが京都市伏見区のパルスプラザで開催されます。里山の会はこれまで環境団体として出店を認めていただき参加してきました。再開されましたので、子供たちに得意の松かさツリーづくりをメインにして参加します。展示は年間実行するイベント参加呼びかけチラシ40枚を張り出します。またこれまで2年間かけてやっと製品になりかけてきた「竹ペン」も宣伝を兼ねてコーナーを飾りたいと思っています。出展店舗は100団体を超え、キッチンカーも並びますので楽しい催しになると思います。是非ご覧にお越しください。



●竹蛇籠現地説明会と竹蛇籠の設置を2024年度も木津川で予定しています。

これまで4群12基の中聖牛は玉水浜に設置しました。竹蛇籠はここで108本製作しました。川は川が作るとされてきた日本の伝統河川工法をここで実践したのです。それが度々の洪水で大きな働きをしてきた結果を見ていただき、取り組みを指導いただいた前京都大学防災研究所の竹門康弘先生から解説をお願いします。京都府立大学の学生さんも多数ご参加されるとお聞きしています。ご都合がつかましたらご参加ください。



竹蛇籠現地説明会

2024年2月3日（土） 10時～12時半 玉水橋東詰め広場 集合
JR 奈良線の玉水駅下車で西へ徒歩200mで木津川です。目印の案内のぼりを目指してください。

●新入会に中学1年生が来られました。

大変うれしいニュースです。1月27日（土）に中学1年生がお父さんとお母さんと3人で里山の会の事務所に来られました。お母さんのお話では、里山の会について図書館で知り、オオムラサキに非常に興味を持っているので是非入会させていただきたいとのことでした。これまで中学生が入会したいからと事務所を訪ねて来られた事は、27年間で初めてで大変驚きました。これからの活躍を期待します。

今は京都大学の准教授になっている浅野君は、小学3年生の浅野君は亀岡からお母さんが昆虫観察に何度も連れて来られました。そして桜谷先生から指導を受けて京都大学に行くのだと決めて、現在は研究に勤しまれている事などをお話させていただきました。

●オオムラサキの捕獲の狙いとマスコミの突っ込みに進退窮まる 浅野君の反論の論文が里山の会を救う

2005年にオオムラサキの成虫を発見した時、マスコミから捕獲してはいけないとされている蝶を捕獲したとして環境団体として強く批判をされました。その折、前項でお話しした浅野君は大学生になっていて、捕獲しないとオオムラサキとして断定できないとして里山の会の捕獲行為を擁護していただきました。研究者などの先生方もそのような見解でありました。上空20mの高さを飛翔しているものを肉眼で確認など素人では不可能です。樹液に集まったところを写真撮影するか、その場所で捕獲して確認する以外には出来なかったのです。そして各社マスコミに現物を示してオオムラサキが京田辺市に生育していることを証明いたしました。あるマスコミは異常な行為として提起したので、その反論をお願いしたのが浅野君で、それを提示していただいたので収めることが出来ました。

●京都府自然環境保全ネットワークのレッドデータの勉強会 淡水魚について

1月28日（日）京都市伏見区の青少年科学センターで行われた講演会で細谷先生から淡水魚についてのお話で、京都府には130種の生息が確認されているけれど、そのうち48種が保護を必要としているとされています。こんな状況になってきたのはなぜなのか、また京都の水辺の環境がどのように劣化してきたのかについての解説がされました。これからどうすることが求められているのか、について考え合いました。特に農業における農業水路における用水路と排水路についての役割の大切さをお話ししていただきました。先生にはぜひ一度里山の会でお話ししたいとお願いしました。

●学習会1 山城の植物 2月7日（水）13:00～15:30 開催場所：京田辺市中央公民館

講師：光田重幸さん（本会理事長代理：府生物多様性センター・アドバイザー）

今多くの団体に後継者問題が大きな課題になっています。里山の会も多くの高齢者が年齢を忘れて維持継続のために大奮闘をしていただいています。これまで本会の中心的活動は「あの花なかに」として綺麗に咲いてくれた花をもっと詳しく知りたいということから活動を始めてきました。近頃入会していただいた皆さんにもこうした疑問がおりと思います。そうした疑問に答えながら、山城地域の植物について多方面から迫っていただきます。花に少し興味を持っておられる皆さん初心者にわかりやすくをお願いしています。気楽にご参加ください。初心者大歓迎です。

●学習会2 乙訓の自然を守る会から学ぶ 2月21日（水）13:00～15:30 開催場所：京田辺市中央公民館

講師：宮崎俊一さん（乙訓の自然を守る会 会長）

現存する京都府下の環境団体のうちで地域への貢献をしてきた活動団体は、乙訓の自然を守る会以外にないのではないかといわれるほど大きな活動を展開されてきました。ポンポン山でのゴルフ場

問題、そしてカタクリとギフチョウの保全やフクジュソウなどを守る活動に多くの人達を結集させての保全運動等大変な実績を積み上げられてきました。その中心者として長年の功労者が宮崎さんです。宮崎さんは活動の原点は「調査無くして、発言ナシ」と強調されています。その足跡をお聞きして、私たちも大いに学び合ってゆきたいと思います。大変多忙のところ無理をお願いしてお越し願うことになりました。こぞってご参加下さるようお願いいたします。

●「かあちゃんズ」の活動一覧です。

里山農園で母ちゃんと子ども達が色々と考えて、2023 年度にこんなに楽しい活動をしました。

4 月 9 日(日) 9 時半～16 時	竹を使って自由に遊ぶ	参加:8 家族 28 人(大人 11 人子ども 17 人)
4 月 23 日(日) 9 時半～16 時	秘密基地づくり	参加:8 家族 22 人(大人 8 人子ども 14 人)
6 月 11 日(日) 9 時半～16 時	流しソーメン	参加:5 家族 17 人(大人 7 人子ども 10 人)
9 月 10 日(日) 9 時半～15 時	夏祭り	参加:5 家族 17 人(大人 8 人子ども 9 人)
10 月 28 日(土)9 時半～17 時	ハロウィンパーティ	参加:8 家族 19 人(大人 7 人子ども 12 人)
11 月 4 日(土) 9 時半～16 時	農園活動と秘密基地	参加:7 家族 17 人(大人 6 人子ども 11 人)
11 月 23 日(木) 10 時半～16 時	謎解き探検	参加:7 家族 22 人(大人 8 人子ども 14 人)
12 月 10 日(日)9 時半～14 時	ハイキングコース清掃	参加:6 家族 18 人(大人 7 人子ども 11 人)
1 月 5 日(金) 10 時～ 15 時	書初めと竹食器づくり	参加:6 家族 18 人(大人 6 人子ども 12 人)
1 月 8 日(月) 10 時～ 15 時	ほうとう鍋とお正月遊び	参加:6 家族 18 人(大人 7 人子ども 11 人)



農園を 大いに活用・
利用してください。